

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0372700641
法人名	有限会社 介護だいとう
事業所名	グループホーム にこにこだいとう
所在地	岩手県一関市大東町猿沢字板倉60-1 (電話)0191-71-4167

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月25日

## 【情報提供票より】(平成 20年 5月 25日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 8月 27日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7 人

### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,600 円	その他の経費(月額)	実費等あり 円
敷 金	有( 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

### (4)利用者の概要( 5月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	— 名	要支援2	— 名		
年齢	平均 82 歳	最低	80 歳	最高	86 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立千厩病院、岩手県立大東病院、岩手県立磐井病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、通所介護サービスを併設し、1階が通所事業所で2階がグループホームになっているが、建物が以前は地域の診療所であったために、地域の方の馴染みの場所となっている。ホーム運営面では、開設時から地域とのつながりを理念に上げて地域とのつながりを大切にしており、地域にとけ込んだホーム作りを目指して取り組んでいる。職員研修においては、ホーム内外の研修はもとより、グループ会社本部の研修や、同系列法人のグループホームと交流できることを活かした積極的な取り組みが見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回は、重度化や終末期に向けた方針の共有と災害対策が主な改善課題として挙げられた。この結果は職員会議と運営推進会議で報告され、改善計画は立てられてはいないが、改善に向けた取り組みは行われており、今後も継続して取り組む意向がある。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価に取り組むにあたり、管理者から職員に評価の意義を説明している。自己評価票は管理者が記入した内容をもとに、全職員で検討して仕上げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議ではホームの近況報告などの他に、前回サービス評価結果の報告と改善経過の報告を行っている。災害対策については運営推進会議で改善に向けた話し合いを行い、積極的な意見が出され改善につなげることが出来ており、今後は防災訓練に地域住民が参加できるように検討を進めている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>広報紙を隔月で発行して、生活の様子が分かるようにしている。意見箱の設置や苦情受け付け案内の掲示を行う他に、定期的に行う家族との面談の中でも意見を伺うようにしているが、積極的な意見は出されていない。H18年から家族アンケートを年に1回実施し、集計した結果をミーティングで全職員に伝え、改善に繋がれるようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とのつながりをホームの理念に掲げ、積極的に関わりを持てるように努めている。地区の区長から地域行事の情報を教えてもらい、行灯祭りではホームで作成した作品を展示して見学に行くなどの取り組みを行っている。また、地域の方から毎年しめ縄を頂いたり、婦人会などのボランティアを受け入れ、花壇の手入れを通し利用者との交流が図れるようにしており、日常的にグループホームに立ち寄ってくれる方もいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い、地域と交流し地域にとけ込んだグループホーム運営を目指していくことを理念に掲げ、地域活動に積極的に参加するように心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念の事業所内掲示や朝の唱和はもとより、理念の中で最も大切にしている「職員と利用者が笑いあい、助け合いながら」ということをケアに活かして、積極的に介護計画に取り入れている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の区長から地域行事の情報を教えてもらい、行灯祭りではグループホームで作成した作品を展示して見学に行くなど、積極的に参加している。また、地域の方から毎年しめ縄を頂いたり、婦人会などのボランティアの受け入れを通し利用者との交流が図れるようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価に取り組むにあたり、管理者から職員に評価の意義を説明し、管理者が記入した自己評価を基に全職員で検討している。前回の評価結果は職員会議で報告され、改善計画は立てられていないが、改善に向けた取り組みは行われており、今後も継続して取り組む意向がある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で前回評価結果の報告と改善経過の報告を行っている。内容によっては運営推進会議で改善に向けた話し合いを行い、積極的な意見が出され改善につなげることができている。例えば、自主防災組織の話がなされ、実際の訓練に地域、家族の方々が参加してみて何が必要か、どんな協力が得られるか等が今後の課題と思われるが、入居者とすぐ分かるような蛍光反射のたすきを購入されたりと、意欲的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護計画作成のための情報開示依頼は行っているが、市町村担当者が行き来したりするような機会は設けられていない。</p>	○	<p>市町村とともにサービスの質の向上に取り組むことが出来るようにするために、運営上の問題や課題について相談したり、市町村担当者がホームに立ち寄る機会を作るなど、積極的な連携作りができるように期待したい。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報紙を隔月で発行して生活の様子が分かるように近況報告している。状態変化などの時には随時電話で報告している。金銭管理は出納帳を用いて行い、半年毎に家族に報告して確認印を頂いている。新任職員の報告はしているが、退職職員についての連絡等は行っていない。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や苦情受け付け案内の掲示をしている。定期的な家族との面談の中でも意見をうかがうようにしているが、積極的な意見は出されていない。H18年から家族アンケートを年に1回実施し、集計した結果をミーティングで全職員に伝え、改善に繋がられるようにしている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>これまで介護職員の離職者は7人ある。管理者は職員の休みや残務について配慮し、働きやすい職場環境づくりを心掛けている。これまで職員が代わったことによる利用者へのダメージは感じられなかった様子である。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修の開催や外部研修の参加を行うほかに、グループ会社が資格取得を積極的に勧めており、本部で研修会を開催し、対象となる職員を積極的に参加させている。新任職員には介護トレーナーの資格を持った職員が担当して、1ヶ月間の指導期間を設けて指導している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県グループホーム協会及び両磐地区協会の定例会は主に管理者が参加し、職員に内容報告を行っている。一昨年両磐地区協会で交換研修を行っており、今後も実施予定である。同グループ会社のグループホームと情報交換を行い、職員の交換研修も年1回行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にできるだけ見学にきていただくように働きかけているが、来られない方もあり自宅等に職員が出向いて面接している。早くホームに馴染めるようにするためにも情報収集に努め、職員への伝達を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の経験などを大切に、それを生かした役割を持てるように働きかけている。職員が利用者にやってもらったりする場面を作るように配慮し、お礼を言うようにしている。関わりの中で年長者として接することを心掛け、失礼が無いように配慮している。入居者(男性)の中に昔建築業の方がおり月1回包丁研ぎをお願いすると居室から砥石を持ってきて磨いていただくような支えあう関係作りに取り組みされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人と家族に3ヶ月毎に面談して希望の把握に努め、介護計画に活かすようにしている。本人の希望が分からない時は、家族から情報を得て、把握に努めている。日々の暮らし方の希望は、関わりの中で聞き取れるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面談で把握した本人や家族の希望を基に、月1回のミーティングで話し合いを行っている。ケアのあり方については、医療連携の看護師の意見も聞いて生かしている。家族には、介護計画書の内容を説明する時に意見を聞くようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。状態の変化に対しては、職員の気づきを記録してミーティングで話し合いその都度対応しているが、これまで介護計画を変更するほどの変化は起きていないとのことで、定期以外の介護計画の変更は行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助は家族が行うようにしているが、家族が困難な時は職員が代わって行うようにしている。また、希望する床屋への外出の支援も行い、柔軟な対応を心掛けている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿って入所前のかかりつけ医に継続して通院している方が半数ほどで、それ以外の方は協力病院に通院している。家族が同行して通院する方でも、必要に応じて検診時に職員や訪問看護の看護師が同行して医師に直接相談するケースもあり、医師との関係づくりに努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして「看取りの指針」を作成し、家族に看取りの希望を確認して、指針に対する同意を得ている。今後は、一度確認した見取りに対する同意内容について、時々再確認出来るようにしたいと考えている。ターミナルの勉強会を事業所内で開催し、今後の取組みに向けた準備を進めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけについて、管理者から職員に注意を促している。禁句マニュアルを作成し職員に配布して勉強会も行うなど、対応の徹底を図れるように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいかを、利用者との普段の会話の中で聞き取るように心掛けている。職員の都合が優先される時もあるが、相手に合わせてすぐに対応出来るときは本人のペースに合わせて支援を行うようにしている。晩酌をするなど、入居前からの暮らしの楽しみも大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、利用者の希望も取り入れて作成している。食事準備は利用者と職員と一緒にいき、それぞれに役割を持てるようにしている。職員も一緒にテーブルで食事をして会話を楽しみ、雰囲気づくりを心掛けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は13時から15時までで、一日の入浴者数は5人程度としている。入浴順番や入浴したい日の希望を聞き、本人の意向を取り入れられるように工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の把握に努め、得意なことや役割を他者と関わりながら行うことが出来るように、場面作りを心掛けている。職員は利用者の活動を見守るようにして、口や手を出し過ぎないようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は週2～3回程度、希望又は声掛けにより行っている。その他、買い物は近くの産直センターなどに一日おきに出掛け、ドライブは行き先の希望も聞いて月に2～3回実施し、できるだけ屋外に出る機会を多く作れるようにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠は19時～5時で、今までは外に出たがって落ち着かない方や無断退居した方は無く、日中に施錠したことは無い。グループホームが2階にあり、職員はエレベーターの開く音に気をつけて、利用者の行動を見守るようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を毎月実施し、その内年2回は消防署の指導の基で行なっている。(内1回は夜間想定)、また地震発生を想定した訓練も昨年4月に実施している。現在、災害時に地域の協力を得るための具体的方法を推進会議で検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量チェックを行い、摂取量の把握に努めている。食事形態は本人の状態に合わせて食べやすく、摂取しやすいようにしている。年に3～4回は関連会社の栄養士により食事のカロリー計算や栄養バランスのチェックを行い、栄養面への配慮もなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールなどには花や飾りを配し、心地よい居場所作りをしている。廊下の小窓にもカーテンを付け、夜には外からの明かりを遮ることが出来るようにしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れた家具などを持ち込み、自分の部屋として安心して過ごすことが出来るようにしており、そのような物がない場合でも、写真を飾るなどの配慮をしている。		